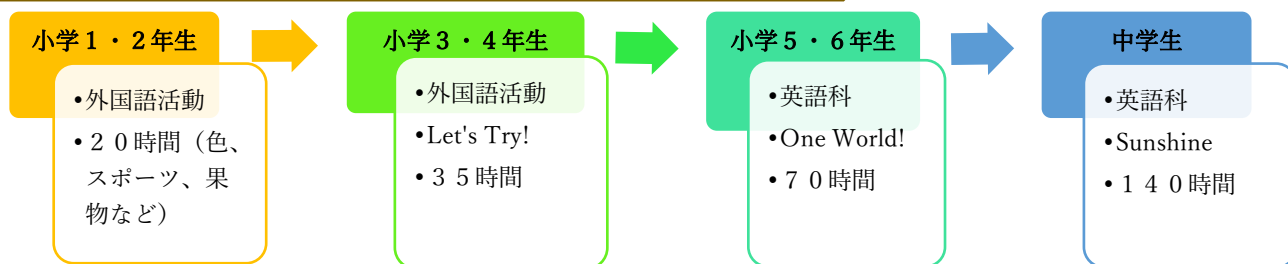


久賀小学校の英語教育について

世界では、急速にグローバル化が進んでいます。そこで五島市では、グローバル社会で通用する力を身に付けるために、1年生からの早期英語教育に取り組んでいます。久賀小中学校では、平成27年度から特例校の指定を受け、小学校1、2年生からの外国語教育を取り入れています。特に久賀小中学校では、他県からのしま留学生が多く学んでいます。小学生と中学生が共に英語を学ぶ英語集会 CatchE を中心に、離島ならではの異学年交流を中心とした英語教育に職員全員で取り組んでいます。久賀小学校では、ゲームを取り入れながら、外国語活動を楽しみながら学習しています。また、中学校英語教員が小学校で授業を行うことで、より小中連携を意識した授業づくりができ、外部検定試験 GTEC において、全国平均を大きく上回っています。また、週に一度 ALT が来校する時には、一人一人が積極的に話しかけ、コミュニケーションを取れるような取組を行っています。

久賀小学校の英語教育の流れ



英語教育の成果と課題

【成果】

・通常の授業に加え、毎週1回のコグニティブトレーニング、月に2回の CatchE (英語集会) を行っている。その成果もあり、中学校で毎年行われている「イングリッシュパフォーマンスコンテスト」において、市の代表として県大会に出場し、優秀賞を受賞した。また、全員がスピーキングにも抵抗がなくなり、自信をもって活動に取り組むことができるようになった。また、小中学校の利点を生かし、中学生が小学生に教えるなど、異学年での学習が豊かな表現力につながっている。

【課題】

・全員が島外からのしま留学生である。1年ごとにメンバーの入れ替わりがあるので、指導の積み重ねが難しい。(児童生徒によっては複数年在籍している)
・少人数であるため、会話の相手が固定化されてしまう。他校との交流学习やリモートでの交流を行い、コミュニケーション力を高める環境を整える必要がある。



学校評価の結果 4点満点中

- ・児童生徒「私は英語の学習に積極的に取り組んでいる。」3.8
 - ・保護者「学校は積極的に英語教育に取り組んでいる。」3.8
- 地域の声「パフォーマンスコンテストでの輝かしい成績おめでとう。よくがんばっていますね。」